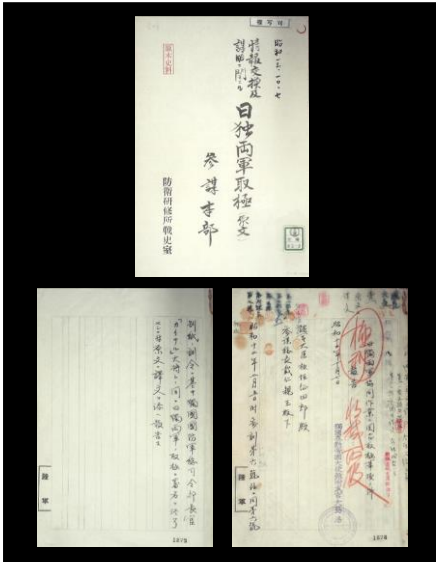


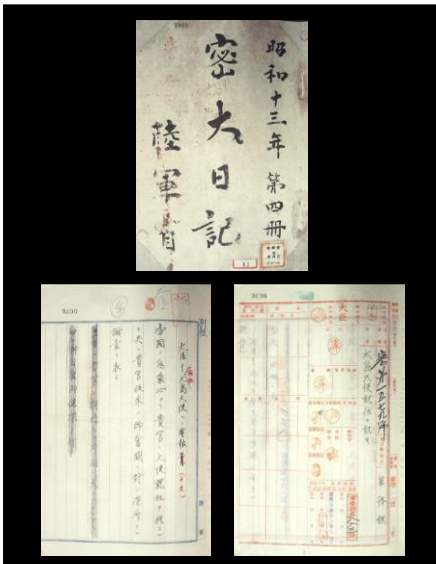
平成28年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 おおしま ひろし
大島 浩 1886～1975年 》
一岐阜県出身の陸軍中將一



情報交換及謀略二関スル日独両軍取極 (登録番号：文庫-宮崎-32-2)

大島浩中將は、明治38年11月、陸軍士官学校(18期)を卒業後、参謀本部防衛課長などを経て、昭和9年3月からドイツ駐在大使館付武官として勤務します。ドイツ語に長けていた大島の主たる任務は、対ソ情報の入手についてドイツ側の協力を得ることでした。そして日独防共協定締結(昭和11年11月25日)後の昭和13年10月7日、大島中將とドイツ国防軍総司令部長官「カイテル」大將は、両軍を代表して「対『ソ』情報交換及謀略二関スル日独両国軍部ノ取極」に署名します。この「取極」により両軍は、日独防共協定の精神に基づき、対ソ情報を相互に交換すること及び対ソ防衛工作を協力して実施することなどを定めます。この史料は「情報交換及謀略二関スル日独両軍取極」で、同「取極」の原文と締結に至った経緯が綴られています。



大島大使就任ニ就キ (登録番号：陸軍省-蜜大日記-S13-4-11)

昭和13年10月8日予備役に編入された大島は、同日駐ドイツ大使に就任します。この史料は「大島大使就任ニ就キ」で、陸軍大臣及び次官の祝電と、大島の返電が綴られています。このなかで陸軍大臣及び次官は、大島の大使就任を祝するとともに、「陸軍ハ貴官ニ絶大ナル期待ヲ嘱シ居ルモノナルニ付貴官ノ任務達成ニ関シ絶対的支持ヲ惜マス」とし、大島は「在職間ノ御厚誼ヲ謝シ併セテ将来ノ御援助ヲ乞フ」と返電しています。駐ドイツ大使として日独防共協定の強化に努力した大島でしたが、独ソ不可侵条約が締結(昭和14年8月23日)されたことから一旦は大使を辞任します。そして翌昭和15年9月27日、日独伊三国同盟が締結されたことから、大島は再び駐ドイツ大使に任ぜられ、終戦までその職を務めます。戦後大島は、A級戦犯として終身刑を宣告されます。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)

外線：03-3260-3011

FAX：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：www.nids.mod.go.jp